

令和5年度第1回 かがしま外国人材受入活躍推進会議の結果（概要）

外国人材政策推進室

- 1 日時 令和5年10月24日（火）14:00～16:30
- 2 場所 縣市町村自治会館4階ホール
- 3 出席者 30名（経済・業界団体，監理団体，有識者等，国，市町村，県等）
- 4 内容

(1) 外国人材に関する取組

- ① 外国人材受入活躍推進に向けた県の取組
- ② 国機関（鹿児島労働局）の取組

(2) 講演

【テーマ】働く外国人材「定着」のための取組と課題ー政府，自治体，企業の観点からー
【講師】内定ブリッジ株式会社 代表取締役 浅海 一郎氏

(3) 意見交換

【テーマ】外国人材の職場への定着

① 就労環境の整備について

- 鹿児島経済同友会
 - ・ 日本企業の多くは，3Kと呼ばれる仕事については，安い労働力で外国人を雇用するという構図であるようだが，これからの社会は，外国人材は単なる労働力であると考えてのではなく，外国人材の才能を見て就労環境の整備をしていかないといけない。
- 県農業協同組合中央会
 - ・ 現在，農業分野は請負制度で外国人材を受け入れている。農協が扱っている業種では，通年での雇用が難しい。
 - ・ 農協では，技能実習から特定技能に変わる外国人材がいたため，就労環境の整備や生活面のサポートを行い，無事技能実習が終了し，特定技能1号になった当初は，働き続けたいとの話であったが，閑散期に他県に派遣された外国人材は戻ってこなかった。転職した理由は定かではないが，賃金の面と派遣会社との連携が上手くいかなかったのが原因ではないかと考えている。
 - ・ 農業分野の技能実習という形で外国人材を受け入れているが，農業に関係する食品加工などでも実習が可能になればと思っている。

② 職場での受入体制・研修について

- 県飲食業生活衛生同業組合
 - ・ 外食には技能実習制度がなく，特定技能1号も大手の飲食店には入っているが，個人店にはほぼいないため，受入体制をどうしたらいいのか分からない。
- 県建設業協会
 - ・ 所轄の警察による防犯，犯罪防止，失踪，交通事故防止等の講座を実施や，パ

ンフレットとリーフレット等による、失踪後の問題や犯罪に巻き込まれる可能性等を教育している企業あり。更に、技能実習生専従の担当者を配置し、実習生の指導、相談業務など24時間体制で対応している。寮の内装や外装の全リフォーム、冷暖房の設置など住環境の整備も行っており、最近では失踪したなどの話も聞かない。

しかし、技能実習が終了する頃になると、製造業に転職したいという外国人材がでてきており、問題視している。また、為替のレートにも敏感で、家族への送金時期にも気を配っているため、今後転籍が安易にできるようになると、地方は分が悪いと思う。

③ 外国人材の育成・キャリア支援について

- 鹿児島経済同友会
 - ・ 日本語レベルに応じて、社員寮の寮費を下げたり、技能実習生によるベトナム語の講座という双方向の交流などが大事になってくると感じた。
- 県老人福祉施設協議会
 - ・ 県内は県内の介護施設は小規模施設が中心であって、小規模な法人であると、人手が足りず、キャリアアップのための研修会等の開催をする余裕がない。そのためキャリアアップに限界があり、成長欲求を満たすことができない。

④ その他

- 県行政書士会
 - ・ 外国人材の問題は、外国人労働者のみの問題に限らず、地域経済、地場産業、或いは社会の問題だということの認識・理解をもってほしい。
外国人材で定着をしている人は、目標を持っているか、或いはもう今更よそに移る気はないという人が多い。地域の方々が必要としている人材を確保するためには、コストを下げるなど、職場への定着に向けた待遇改善に繋がるような方法を考えてもらいたい。
- 県社会保険労務士会
 - ・ 企業の労務の担当者は、外国人と一緒に働くための最低限の知識をもってほしい。
- 鹿児島大学
 - ・ 日本語教育のコンテンツが25年前から変わっていない、これは日本語学校も含めた話だと思うが大学の日本語教育についてはなおさら当てはまるような話であると感じた。
何か新しい取り組みをするときに、大学単体ではなく、地域のステークホルダーが連携するコンソーシアムのような母体があることが重要であると感じた。
- 鹿児島大学法文学部
 - ・ 鹿児島県の産業構造の維持や社会・経済の問題を総体として考えるならば、外国人だけを取り上げるのではなく、全体としてどう基盤整備を行っていくと言うことが、鹿児島大学においても言えるのではないか。

中小企業と鹿児島県の産業界と本学が連携を図るのはすごく大事であると考えており、それは外国人や日本人は関係ないと考えている。高等教育機関と産業界とが、いかに連携を図りながら、他の枠組みを使って受け入れていくことも大事なことと思う。

○ 県行政書士会

- ・ 行政書士会では、留学生からの相談もある。大学を卒業したら、簡単に就職できると考えていたが、上手くいかない、在留資格の許可が下りないなどの相談があり、就職先の面倒を見ているが、私たちにも限界がある。

○ 鹿児島大学

- ・ 本学では毎年70人程度の留学生が卒業・修了し、日本国内に就職するのは10～15人で、県内には1人か2人である。全国的には留学生で日本国内就職する学生が3割、それを6割にする目標があるが、全国と比べると鹿児島県は遅れていると感じている。就職については日本人学生と同様の支援であったが、留学生に特化した取組が欠けていたので、今後はその部分の取組が必要になると認識している。

○ 内定ブリッジ株式会社

- ・ 在留資格に関係なく、外国人のキャリアの可能性を、少し想像してもいいのではないか。

事例を知らないのであれば、事例を知ってもらい、外国人材のキャリアの可能性を想像し、企業がキャリア形成のための支援をしていることなど、県の広報などを通じて周知してもよいのではないか。

○ 県飲食業生活衛生同業組合

- ・ 私のところの会社では、以前技能実習生を受け入れていたが、入国できない状況が続いたため、1度中止した。代わりに、特定活動46号を3人受け入れ、1人残っている。

しかし、外国人材を受け入れるにはイニシャルコストが大きい、監理組合に払うお金も多いため、例えば、外国人材が県営住宅に入る際は、補助を出すなどを考えていただければと思う。

○ 県国際交流協会

- ・ 技能実習生からは、給与や住環境、労働環境（休みが取れない、職場のいじめ）などの良くない相談を受けるが、出張相談に行った際に「私はこの町が好きで、技能実習が終わったら特定技能になって、配偶者も日本に呼び寄せて、この町で暮らしたい。」と言う方がいた。話を聞いてみると、その外国人材は、会社で働く同じ仲間として、同等な形で雇われていて、よい環境で働いているのが見えた。

なぜ都会に行かないのかという質問には、「その町は物価が安いし、人がいい」と返答があり、今後このような技能実習生が増えていけば、よい町になっていくと感じた。

以上